

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つばめ療育館しばた分館		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 2日		2025年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 35
○従業者評価実施期間	2024年 12月 9日		2024年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達支援コンサルタント(保健師)が月1回ご利用児の個別面談のために来館していること。 常勤の作業療法士がいること。	利用前には、発達支援コンサルタントまたは作業療法士による身体評価を反映させる児童発達支援計画を作成している。	更に専門性の高い作業療法士の育成のため、研修に積極的に参加させる。そのために、研修費の補助や代休の取得などの体制整備を強化する。
2	身体調和支援を取り入れて支援していること。	発達支援コンサルタント主催の専門研修は順次受講し、修了者は再受講を行っている。	技術研鑽のため、定期的な更新研修の受講を継続する。
3	親子通所であること。	ご利用児本人への支援はもちろんのこと、家庭でも療育的な関わりや視点を持っていただけるよう、保護者への働き掛けにも重きを置いて支援している。	職員の専門性をさらに向上させ、随時保護者へ活動の意味合いや目的、支援の方法などを伝えていく。 保護者からの質問や疑問、子育てに関する困り感などの相談については多職種で検討し、より良い対応方法を探り回答する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	欠席率が高いこと。	親子通所のため、両者の体調や予定が合わないと利用できないため。	来年度は支援時間を短縮し個別の親子療育とすることで、集中力を維持して取り組めるように変更する。事業所内での体調管理のため感染対策により注意を払う。
2	小集団での活動が主体のため、より個別での支援が適したご利用児への配慮が難しいこと。	小集団での活動プログラムの枠が決まっているため、活動の自由度が低いこと。	来年度は親子での個別療育を提供する体制へ変更する予定。それにより、個別対応を充実させていく。
3	プログラムが固定化されやすい。	身体調和支援、運動(感覚統合)、課題の3つの柱で支援が構成されていることや、変化を確認するために活動が平板化している可能性がある。	変化を見るための活動設定は必要なので継続するが、似たような感覚運動経験を別の活動でも取り入れられないか、常に検討する。